

甘利大臣による記者会見の概要

日時：4月10日（木）16：03～16：10

場所：内閣府本府1階玄関ホール

【冒頭発言】

昨日の朝から先ほどまで二日間にわたり、時間にすると述べ18時間、フロマン USTR 代表との間で日米間の残された課題について集中的に交渉を行った。一対一の話し合いも含め、日米双方の立場や事情について率直に意見交換ができたと思う。一定の進展はあったが、まだ相当の距離感はある。安倍総理、それからオバマ大統領からそれぞれ交渉を加速するようにと指示を受けているので、引き続き交渉を続けていく。

【質疑応答】

記者：牛肉や豚肉の関税の下げ方については、落としどころはだいぶ詰まってきたのか。

甘利大臣：交渉のどの分野ということは差し控えるが、一定の前進はあった。まだそれぞれの分野について落としどころは見えてきていない。

記者：今月下旬の日米首脳会談は一つの節目という言い方をしていたが、ここに向けて今後事務レベルで協議を続けるのか、それとも閣僚レベルで協議を続けるのか。

甘利大臣：今月下旬の日米首脳会談は一つの節目となるが、そこが予め設定された最終着地点ではない。交渉を詰めていって交渉がまとまっていくという内容の詰めが大事で、最初に期日ありということではない。ただし、両首脳からそれぞれ両国大臣に対して交渉を加速せよという指示がでて、それを受けての一日半の作業。今後のことについては、事務レベル、まだこの後双方の事務官は残るので、事務レベルの作業を続けていく。その後、来週以降、オバマ大統領訪日までの間にこういった作業をするかはまだ未定。今後協議していく。

記者：現時点では、日米首脳会談までの大筋合意というのは、見通しはどうか。

甘利大臣：まだ何とも言えない。距離感はまだかなりある。

記者：大筋合意に向けて乗り越えられる距離感なのか、大臣の見通しは。

甘利大臣：まだ何とも言えない。それぞれ、日米に事務的に残されている課題がよりクローズアップされてきているので、それぞれの作業を通じてオバマ大統領訪日までどのくらいその間合いが詰まるかはやってみないとわからない。

記者：18時間の協議の中で、米国の姿勢に何らかの変化は見られたのか。

甘利大臣：双方の立場、お互いが相手をより理解できた。つまり、何が相手側の主張すべき点で、何がこちら側が相手により正確に伝えたい点かという

ことはより理解が深まったと思っている。そういった意味では議論はかなり深まったと思う。ただし、まだ距離感まだはかなりある。

記者：議論に進展があったというのは、理解が深まったこと指しているのか、それとも具体的に内容が深まったということか。

甘利大臣：交渉の中身としていくつかの進展はあった。議論が深まったということも事実。

記者：今回の会合で日豪 EPA の影響は何か感じたことはあったか。

甘利大臣：豪州と米国は関心品目が重なっているので、日豪 EPA の大筋合意は米国にとっても関心事項だと思う。

記者：確認だが、24 日の大筋合意は不可能ではないと大臣は思っているのか。

甘利大臣：まだここで可能、不可能を言及する時期ではないと思う。これから大統領訪日までの間、まだ 10 日近くあるので、その間の作業もなされる。それらの進展度合いを見てみないと何とも言えない。

記者：日豪 EPA がまとまったことで、米国の交渉姿勢に変化はあったのか。

甘利大臣：米国が日豪 EPA に関心を示していたというニュアンスは伝わってきた。

記者：フローマン代表は、日豪 EPA よりもクオリティの高い協定を求めているという表現を使っていたが、それについての大臣の考えは。

甘利大臣：もともと TPP はかつての EPA、FTA で成し得なかったような高い野心を求めている。その中でセンシティブティを交渉の中でどう勝ち取っていくかというのは日本が TPP に加盟する時から言われている。米国は従来からかつて各国が結んだ経済連携で成し得なかったような高い野心を実現していくといつも言っているので、そのことを言ったのだと思う。

記者：いくつかの進展があったとのことだが、これはどちら側からの歩み寄りか。

甘利大臣：交渉というのは、いつも言っているように、日本は相手の方に一方的に、あるいは相手の方がこちら側に一方的にという中での進展はない。双方が同じように歩み寄るということ以外にはない。

記者：関税について米国側の姿勢が少し変わった？

甘利大臣：詳細についてはコメントは控える。

記者：今日、国会の中で総理と話したと思うが、TPP についてどのような報告をしたのか。

甘利大臣：昨日、そして今日の午前中の交渉について簡潔に報告した。

記者：総理は随分表情が厳しかったが。

甘利大臣：そうですね。いつもと同じように見えました。

記者：総理からはこういった言葉があったのか。

甘利大臣：引き続きしっかりやってほしいということだ。

(以上)